

平成22年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：ネギべと病（No. 1）

平成22年4月8日
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

4月上旬現在、県西部の一部ほ場においてべと病の発生が認められており、例年と比べて早い発生となっています。今後の気象条件によっては発病が急増する恐れがありますので、現在発生が認められていないほ場においても予防防除を徹底しましょう。

また、中山間地のネギほ場においても、本病の発生時期が早くなる恐れがありますので、今後の気象経過及び本病の発生状況に注意し、防除が遅れないようにしましょう。

2 情報の根拠

- (1) 4月5日に、園芸試験場弓浜砂丘地分場においてべと病の発生が認められ、例年と比べて早い発生となっている。
- (2) 前年の春及び秋に、県全域で本病が多発したことから、病原菌密度は高いと考えられる。
- (3) 本病は、15 位で降雨が続くと発病が増加することから、今後の気象条件によっては発病が急増する恐れがある。

3 防除上注意すべき事項

- (1) 発病後の蔓延は早いので発病前からの防除に努める。
- (2) ランマンフロアブル2,000倍液、アリエッティ水和剤800倍液、ペンコゼブフロアブル600倍液などを予防散布する。
- (3) 発病を認めたら直ちに、リドミルMZ水和剤1,000倍液、フォリオブラボ顆粒水和剤1,000倍液、フェスティバルC水和剤1,000倍液などを散布する。
- (4) 同一成分を含む薬剤は連用しない。また、成分ごとの総使用回数に注意して薬剤を選定する（表1、表2）。

表1 ネギべと病の主な防除薬剤（平成22年4月6日現在の農薬登録内容）

薬剤名	希釈倍数	本剤の使用回数	使用時期	含まれる成分	
ジマンダイセン水和剤	600倍	3回以内	収穫30日前まで	マンゼブ	-
ペンコゼブフロアブル	600倍	3回以内	収穫30日前まで	マンゼブ	-
アリエッティ水和剤	800倍	3回以内	収穫3日前まで	ホセチル	-
アミスター20フロアブル	2000倍	4回以内	収穫3日前まで	アゾキシストロピン	-
ランマンフロアブル	2000倍	4回以内	収穫3日前まで	シアゾファミド	-
リドミルMZ水和剤	1000倍	3回以内	収穫30日前まで	メタラキシル	マンゼブ
フォリオブラボ顆粒水和剤	1000倍	2回以内	収穫14日前まで	メタラキシル	TPN
フェスティバルC水和剤	1000倍	3回以内	収穫14日前まで	ジメトモルフ	銅
プロポーズ顆粒水和剤	1000倍	2回以内	収穫14日前まで	ベンチアバリカルブ イソプロピル	TPN

表2 成分ごとの総使用回数

成分名	総使用回数
マンゼブ	3回以内
ホセチル	3回以内
アゾキシストロピン	4回以内
シアゾファミド	4回以内
メタラキシル	4回以内(種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内)
ジメトモルフ	3回以内
ベンチアバリカルブイソプロピル	3回以内
TPN	3回以内(土壌灌注は1回以内、散布は2回以内)
銅	-